

日本選手権で1500mの熱戦 連合の24、25年度役員決まる

6月27日から4日間、新潟・デンカビッグスワンスタジアムで行われた第108回日本選手権はパリ五輪代表選手選考会を兼ねて熱戦が繰り広げられた。最終日の30日にはオープン種目として、マスターズ1500mがあった。男女の成績と女子のレースをお届けする。また、日本マスターズ陸上連合の24、25年度の役員人事が決まった。

猛暑の8月、9月に京都で開く全日本マスターズ陸上選手権に備えての練習は、炎天を避けて。

写真／中野英聡

女子1500mのトップ 4分57秒94の平賀恵子さん

W40クラスから65クラスまで14人で競い合い、千葉・松戸市陸協の平賀恵子さん（42歳）が4分57秒94で見事に1位となった。5分を切ったのは平賀さん1人だけだった。

平賀さん、レース前の雰囲気には酔ったそう。

「普段のマスターズのレースとは全く違い、ピーンと張り詰めた空気が緊張しました。やはり日本の一線級が争う競技会は別舞台だと」

だが、いざスタートすると、マスターズといっても競争だ。3番手あたりにつける展開から、ラスト500mでスパートし、トップに出るとゴールまで。レースの後「4分50秒を切りたかったのに、57秒台とは。実はこのレースの直前に右脚のスネを痛めて、出場できるかな、と心配しました。でも、走れて良かった。しかも1位になれるなんて。うれしいです」と笑顔で話した。

た。

右脚にテーピングして力走した平賀さん。日本選手権前に4分51秒台で走っていたとかで、4分50秒切りを目標にしたのだろう。

平賀さんは40歳になる前にマスターズへ登録。40歳になった2022年、東京・国立競技場であった東京スポーツ祭典の800mと1500mに出て、2分26秒51、4分59秒74で走った。これらのタイムは22年度全国ランク・W40クラスの2位と1位だ。

23年も東日本マスターズ陸上の800mと1500mで1位になるなど、実力を備えている。高校時代は宮崎県の都城泉ヶ丘高に学んだ。陸上部で、800m 2分25秒台で走っていた。

9月の京都開催の全日本マスターズ陸上には「喜んで参加します。全日本は初参加なので楽しみにしています。できれば800m 2分25秒を切って、1500mも4分50秒を切りたい。いずれも（W40クラスでの）生涯記録を出すことが夢です」と張り切っている。

2位に稲垣水美さん、 3位はW50の田中美香さん

2位は5分06秒33の稲垣水美さん（45歳・奈良）が入った。開口一番「このタイムでは。全然駄目ですね。昨年、地元の記録会で4分59秒99を出しているのに、5分6秒台とは一」

稲垣さんは日本選手権でのレースまでに「今年はこれまでに800mも1500mも1本ずつぐらいしか走っていないので」と話したが、レース回数が不足していたのかもしれない。

レース1周目で稲垣さんは3番手あたりの位置取りで、2周目で一時トップへ。最後の1周で「後半粘れず、抜かれて2位へ」と、悔しそうな表情を浮かべた。

稲垣さんは遠方の大会へはあまり出でいかず、地元の記録会などに出場することが多い。18年に奈良であった国際ゴールドマスターズ大会の800mでもW35クラスにおいて2分28秒89で快勝している。2位が2分35秒53



左から1位の平賀さん、2位の稲垣さん、3位の田中さん

なので圧勝だ。

全日本マスターズ大会といえば17年の和歌山での第38回マスターズの800mに、38歳で出たことがある。W35クラスを2分31秒92でディプロマを手にした。

22年8月14日の奈良市記録会ではW40・800mに2分25秒85を出した。この記録は同年度の国内1位。稲垣さんは43歳だった。45歳の現在、稲垣さんは言った。「W45クラスの日本記録は手動計時が2分24秒5ですが、電動では2分25秒88。私のベストはこれに近い。これから先、地元の競技会に出て、日本記録に挑戦します」とのこと。

W50クラスの53歳、田中美香さん(兵庫)が5分08秒11で3位になった。田中さんは「タイムに満足していません。でもW50クラスの私が40、45クラスに交じって、3位になったことで、よく頑張ったと」ホッとした表情。「やはり若い人たちと一緒にだと、しんどさが違いますね。私は昨年、1500mを5分05秒00で走っているの、あと1、2秒は縮めたかった」と話す。

さらにレースについて「攻めたつもりだったけど、甘かったのかな」と反省の弁が続く。だが、日本選手権については「感動しました。緊張もしたけど楽しかった。このような舞台に立ったのは初めてでした。推薦してくださったことに感謝です」。

田中さんは一昨年、W50クラスの800m 2分29秒56、3000m10分49秒74で国内トップのランク。1500mと5000mは共に2位にランクされている。

小学1年時の校内マラソン大会以降、ずっと走り続けている田中さん。現在は消化器外科医として病院勤務を。普段は中3と小5の子育てをしているママさん。中3の娘さんが陸上部で「たまには2人で記録会などに出ています」とのこと。「W55クラスに向かって、同クラスの日本記録更新に！」が夢だ。

第108回日本選手権 マスターズ1500m成績 (6月30日／新潟・ビッグスワン)

男子			
組	順位	記録	選手名(クラス・所属・都道府県)
1組	1	4分18秒11	利根川裕雄 (M50・アルプスツール・長野)
	2	4分26秒16	江本 悟司 (M50・三菱自動車岡崎・愛知)
	3	4分27秒24	井上 明彦 (M50・オホーツクAC・北海道)
	4	4分30秒15	金子 誠一 (M55・山口県庁・山口)
	5	4分35秒81	宮崎 祐行 (M55・GGRC熊本・熊本)
	6	4分36秒67	新井 秀徳 (M50・途中ヶ丘クラブ・京都)
	7	4分37秒65	佐藤 和仁 (M55・関体協・岐阜)
	8	4分49秒34	千田布美夫 (M60・TEAMアテルイ・岩手)
	9	5分00秒88	眞淵 和幸 (M60・栃木マスターズ・栃木)
	10	5分01秒06	山田 孝志 (M65・県北陸協・福島)
	11	5分07秒66	村岡 隆幸 (M60・TBタートルズ・大阪)
	12	5分08秒87	橋 章良 (M65・兵庫マスターズ・兵庫)
	13	5分09秒16	佐々木 建 (M65・岩手マスターズ・岩手)
2組	1	4分01秒32	堀 貴博 (M40・MORE・神奈川)
	2	4分01秒99	楠本 憲司 (M40・BURLESCA・徳島)
	3	4分02秒56	中村 高洋 (M40・京セラ鹿児島・鹿児島)
	4	4分06秒37	磯尾 友規 (M40・team F.O.R・三重)
	5	4分07秒22	村澤 智啓 (M35・長野市駅伝部・長野)
	6	4分09秒24	藤森光一郎 (M45・BACK NEXT・山梨)
	7	4分12秒93	山田 泰広 (M45・県北陸協・福島)
	8	4分14秒35	和泉 憲昌 (M45・レジェンズTFC・神奈川)
	9	4分14秒51	角熊 徹 (M45・室見川RC・福岡)
	10	4分35秒64	小澤 勇 (M40・上越市陸協・新潟)

※2組上位8名=タイムレース上位8名

女子			
順位	記録	選手名(クラス・所属・都道府県)	
1	4分57秒94	平賀 恵子 (W40・松戸市陸協・千葉)	
2	5分06秒33	稲垣 水美 (W45・奈良マスターズ・奈良)	
3	5分08秒11	田中 美香 (W50・三田アスリート・兵庫)	
4	5分11秒43	水藤 孝子 (W50・東京WINGS・東京)	
5	5分13秒02	苗代沢栄里 (W50・秋田マスターズ・秋田)	
6	5分16秒06	大槻 綾子 (W40・札幌陸協・北海道)	
7	5分17秒51	宇都宮美香 (W45・愛知マスターズ・愛知)	
8	5分19秒36	松本 寿美 (W45・GRIAB・大阪)	
9	5分37秒98	栗林 友子 (W55・長岡市陸協・新潟)	
10	5分40秒37	宮本 勝代 (W55・京都マスターズ・京都)	
11	5分42秒64	末吉真規子 (W60・金沢AC・石川)	
12	5分43秒78	岩村 直美 (W60・済美山TC・東京)	
13	5分52秒64	永井真友美 (W60・eA茨城・茨城)	
14	6分03秒45	永海 昌子 (W65・鳥取マスターズ・鳥取)	

24、25年度連合新役員

会長・中嶋誠次氏、専務理事・岡桂子氏

日本マスターズ陸上競技連合は6月27日、東京で会合を開き、24、25年度の新人事を決めた。会長は中嶋誠次氏(神奈川)が留任、専務理事には岡桂子氏(和歌山)が選任された。

地域推薦理事(13人)

北海道・東北	小松 樹(留任・秋田)
関東	下田智久(留任・東京)
	坂本修一(留任・神奈川)
	伊得正紀(再任・埼玉)
北陸	山崎 健(留任・新潟)
	=競技運営委員長
東海	柿木和男(留任・三重)
	加藤 正(新任・岐阜)
近畿	椎木茂久(留任・大阪)=副会長
	岡 桂子(再任・和歌山)
中国	山口隆之(留任・鳥取)=副会長
四国	中村 勇(新任・徳島)
九州	山田清美(留任・佐賀)
	春田武志(留任・鹿児島)

学識経験理事(7人)

中嶋誠次(留任)=会長
田上静之(留任)=副会長
岡田節男(留任)=副会長
伊藤誠一(留任)=総務委員長
今井守雄(留任)=財務委員長
藤林真美(留任)=普及広報委員長
三輪記子(新任)=倫理委員長

監事(3人)

関根春幸(留任)
成家秀樹(新任)
吉池 彰(新任)